

## 事業再評価シート

事業名	総合流域防災事業（小丸川圏域）		
箇所名	二級河川一ツ瀬水系追手川	市町村名	宮崎市

（上段は前回、下段は今回）

実施方法	補助 交付金 県単		
事業期間	採択年度	再評価年度	完了予定年度
	H2	H21	H26
		H26	H30
事業進捗	全体事業費 （百万円）	既投資額 （百万円）	進捗率（％）
			事業費      用地
	4,531	3,966	87.5      85.3
	4,531	4,115	90.8      90.9
再評価の概要	対象選定理由		事業効果(B/C)
	再々評価後5年経過		1.58
	再々々評価後5年経過		1.37
			対応方針原案
			継続
			継続

全体計画
<p>追手川では、流下能力の低い区間があり、昭和57年に浸水家屋295戸、浸水面積66ha、また平成元年に浸水家屋86戸の甚大な浸水被害が発生した。</p> <p>このため、追手川本川の720mの区間、支川今川から堤川をあわせて三財川へ流下させる放水路の1,100m区間、及び今川残流域・堤川残流域を追手川へ流下させる追手川支川の1,015mの区間について、平成2年度から河川改修事業に着手している。</p> <p>これまで、追手川本川L=720m区間、放水路L=1,100m区間、及び追手川支川下流部において整備が完了している。</p> <p>一ツ瀬川水系河川整備基本方針：平成23年7月20日策定                      一ツ瀬川水系河川整備計画：平成24年4月23日策定</p>

事業概要
<p>追手川本川の720mの区間、支川今川から堤川をあわせて三財川へ流下させる放水路の1,100m区間、及び今川残流域・堤川残流域を追手川へ流下させる追手川支川の1,015mの区間について、主に河道拡幅、放水路を実施し、流下能力を向上させる。</p> <p>改修延長    本川    L= 720m                                       放水路   L=1,100m                                       支川    L=1,015m</p> <p>総事業費    4,531百万円</p> <p>計画規模    30m<sup>3</sup>/s：三財川合流地点（概ね30年に1回程度発生する洪水規模）</p> <p>事業内容    河道拡幅、放水路、樋門・樋管の整備等</p>

## 事業目的

### 対象事業の目的、必要性

追手川では、流下能力が不足する区間が存在しており、追手川流域において浸水被害が発生していることから、流域住民からも早期改修の要望が強く、治水安全度を早期に向上させる必要がある。

### 計画での位置付け

追手川の改修計画は、平成2年11月6日に策定した追手川改良工事全体計画に位置付けられている。

### 他事業との関連性・事業による効果

改修区間において、河川改修による国道橋の架け替え工事を道路管理者と共同で実施している。また、都市下水道整備と一体となって、河川改修を進めることで、治水効果を上げている。

### 事業を継続する必要性

追手川本川と放水路、及び追手川支川の下流部が完成し、流下能力の向上が図られたものの、平成17年には床上19戸、床下67戸の浸水被害が発生していることから、引き続き追手川支川上流部の改修が必要である。

## 事業の進捗状況

### 現在の事業進捗、整備効果の発現状況

平成21年度迄に、追手川本川と放水路、及び追手川支川（堤川）の下流部については、改修が完成しており、効果が発揮されている。その後、平成26年度までに追手川支川の残りの上流部は、調査設計や必要となる用地の取得等を行っている。

### 今後の事業進捗の見込み

現在、追手川支川の上流部の用地買収を実施しており、引き続き支川上流に向けて事業進捗を図っていく。また、工事については、町道橋の架け替え等を進める予定。

## 社会情勢等の変化

### 事業を取り巻く社会情勢等の変化

平成18年1月に旧宮崎市と佐土原町が合併し、宮崎市となり、追手川流域における防災施策を一体的に進める環境が向上している。

一方、宮崎市の高齢化率は24.5%（H26.10月）であり年々増加していることから、台風時等における災害弱者の増加が懸念される。

### 災害等の発生状況

昭和57年7月（梅雨前線） 床上浸水54戸、床下浸水241戸、浸水面積約66ha

平成元年6月（梅雨前線） 床下浸水86戸

平成2年9月（台風20号） 床下浸水37戸、浸水面積約3ha

平成2年10月（台風21号） 床下浸水5戸、浸水面積約0.4ha

平成5年5月～8月（梅雨、台風4～7号） 床下浸水10戸、浸水面積約0.5ha

平成17年9月（台風14号） 床上浸水19戸、床下浸水67戸、浸水面積約0.4ha

### 環境保全に対する取り組み

追手川では、護岸は緩傾斜にするとともに現地発生土で覆土を行い、植生の早期回復に努めている。

## 事業効果の分析

### 費用対効果

費用対効果は、1.37である。

### 事業を継続することの事業効果分析

追手川支川の未改修区間の整備を進めることにより、洪水被害を軽減し、安全で安心な暮らしが確保される。

コスト縮減
-------

今後、地元と協議し、追手川支川上流部の樋管を統廃合する等コスト縮減に向けた取組を実施していきたい。
---

代替案の可能性
---------

追手川の改修計画は平野部の市街地を流れる河川であることから、ダム等の流量調節施設の建設は、地形上の制約から困難である。 また、事業進捗率も91%と高いことから、現計画以外の代替案は適さないと考えている。
--

対応方針
------

継続
----

